

# 議会だより

## 9月定例会一般質問

9月定例会の一般質問の  
要旨は、次のとおりです。

(発言順)

岡本久光議員



**問①** 高齢者移動支援事業について

高齢者移動支援事業では、今年度より定期バスにも利用が拡充され、高齢者等の方々から喜ばれている声が届いています。しかしながら、疾病等で通院時に自ら運転できない方もおられますので、医師の診断書により本事業の支援の拡充は図れないかを伺います。

**答弁** ①(芝田村長)

この支援事業は、平成24年度から実施しており、令和2年度に高齢者等福祉対策検討会議を立ち上げ、委員の意見を反映しながら制度の拡充を図っています。

質問の内容については、去る7月25日の検討会議で協議されているところで、協議内容について担当課より説明します。

**説明** (磯野保健福祉課長)

当協議会では、疾病等で一時的に自ら運転できない高齢者の方の支援対象期間、利用券交付方法及び手続き方法などを協議しています。本年中に第2回検討会議が開かれますので、引き続き協議してまいります。

**問②** 曾爾高原公衆トイレ改修工事について

昨年12月に定例会で一般質問しましたが、令和5年度で設計業務、そして令和6年度予算では秋のハイシーズンまでに工事完了との事でありました。しかしながら、工事着手に至っていません。遅延理由等につきまして説明をお願いします。

**答弁** ②(芝田村長)

本事業は、本年10月までに工事を完了する予定で入札準備を進めておりましたが、入札辞退者があつて入札ができなくなりました。こうした事例は、全国や県内でも見受けられ、価格が合わない、また工期が合わないなどが要因であります。改めて令和7年3月末までに完成できるよう担当課に指示しております。今回に至った経緯を担当課長より説明します。

**説明** (森澤企画課長)

本工事は9月30日を工期とし、3

者による指名競争入札を6月18日執行で進めておりましたが、6月11日に1者より入札辞退があり入札不調となりました。辞退した理由は、工期が合わないとのことでありました。

本事業は、奈良県自然環境整備事業補助金を活用して実施しますので、奈良県と再協議をしながら入札準備を進めてまいります。

佐治貴章議員



**問③** 南海トラフ地震における曾爾村の災害対策と災害用品の備蓄について

最近、新聞やテレビで南海トラフ地震のことが大きく取りざたされ、いつ何時震度7〜8クラスの大地震が起こっても不思議ではないと言われています。曾爾村周辺には大きな活断層がないと聞いておりますが、直下型の大地震が絶対に起こらないとは決まてないと思います。

大地震が発生した場合、電気、通信、水道、道路網などのライフ

ラインが寸断され、曾爾村が孤立したときに、住民避難と命を守る災害対策が全然機能しないのではないかと危惧しています。未曾有の大災害に発展した場合の対策を今一度練り直す必要があるのではないかと、また食料品、飲料水及び生活用品等の備蓄が十分に足りているのかを伺います。

**答弁** ③(芝田村長)

本村における災害発生時の対応は、曾爾村地域防災計画に明記され、計画をもとに発災時における住民、自主防災組織、行政などそれぞれの役割分担により対応することになっております。

第2次奈良県地震想定被害調査における曾爾村での被害は、南海トラフ地震の予想震度は5強が想定されています。そうした中、防災計画に基づき毎年1回防災訓練を実施し、村民全員による避難訓練に、本年度は要配慮者の安否確認を自主防災組織と民生委員連携により実施しました。また自主防災組織向けに実技訓練や、消防署や消防団との連携により消火栓及び水消火器による初期消火訓練も実施しました。過去には、避難行動計画の作成や緊急救命講習など毎年工夫を凝らしながら、いつ起こるか分からない災害に向け訓練に取り組んでいます。

これからも、住民それぞれが命の安全を守る訓練、自助・共助の

精神を持って行動できる訓練、各機関や自主防災組織との連携を保ちながら定期的に訓練を実施してまいります。また、災害備蓄品は、防災センターに計画的に備蓄しており、担当課長より説明します。

**説明**（間井谷総務課長）

第2次奈良県地震想定被害調査による南海トラフ地震での被害は、家屋の全壊が3棟、半壊3棟、水道断水58世帯そして電力供給障害75世帯と想定され、また避難人口の想定は、発災直後23名、1週間後29名と想定されています。発災時における食料及び飲料水の1日あたりの想定必要量は、食料83食、飲料水1日83ℓとなっています。

本年9月1日現在の災害備蓄品は、食料2,420食、長期保存水500mlペットボトル6,223本と十分に確保し、賞費期限による入れ替えも行っています。その他では、携帯用浄水器100個、土嚢袋992袋、カセットコンロ12個、防災テント4張、毛布554枚、アルミブランケット900枚、簡易トイレ3基そして衛生用品などを備蓄しています。また、自主防災組織には、長靴、ヘルメット及び発電機の配布をしています。

本村では、応援協定を奈良県電気工事工業組合、市民生活協同組合ならコープ、宇陀地区医師会、名張市、奈良県及び県内市町村そ

して奈良県広域消防組合などの各種団体と締結しています。

今後も、適切な計画の見直しや備蓄品の購入、また関係機関との連携を行い災害対策に取り組んでいきます。

**再質問**

村内全世帯、全住民を対象におおむね3日分の備蓄品と聞いておりますが、ストック場所の確保、費用面そして賞味期限など考慮する必要がありますものの、1週間分の確保は必要ではないかと考えますが、いかがですか。

**答弁**

1週間分の備蓄品の確保となるとストック場所、費用面、そして賞費期限により難しいところもあります。各ご家庭で、食料品をストックするなどの自助活動をしていただけるよう啓発にも努めたいと考えています。

**■ 本治正人議員**



**問い** ④主要道路・幹線道路被災時における迂回路の整備について

令和6年7月7日に発生した国道369号山粕地内の山腹崩壊崩

落災害事故におきましては、人災がなかったことが何よりでした。この災害での通行止め、復旧工事の影響は、曽爾村のみならず、御杖村の住民にも多大な苦痛と不便を余儀なくされたことは周知の事実であります。今般のような「命の道の封鎖」を経験し、道路の大切さとありがたさが身にしみたとであります。

本村においては、国道369号線と県道81号線であり、持続可能な村づくりの基本が、命の道である主要道路・幹線道路の安全確保と改良の比重が重大だと思っています。道路整備においては、法令等多岐にわたる運用によって実施されていることは承知をしていますが、少子高齢化、移住対策、観光振興、産業育成、生涯教育等の課題解決の一助となり得る命の道の有効活用のため、村内主要道路による迂回路の機能を十分果たせるための道路整備を早急に取り組むべきだと考えています。

今般の迂回においては、道路が狭い、あるいは距離が長い、そして事故などもあったように聞きます。そんな中で迂回路を整備することは大変重要な課題だということに思っていますが、このことについて村長に伺います。

**答弁** ④（芝田村長）

今回の8月9日までの国道369号の完全通行止めで、村民の皆

さまや、利用者の方々には大変ご不便をおかけしました。また、奈良県宇陀土木事務所には、応急工事などの対応でご尽力頂いたことに感謝しているところです。今回の通行止めで、道路は生活に欠かすことのできない重要な命の道であること、道路のありがたさを再認識したところです。

曽爾村には、国道369号、主要地方道県道名張曽爾線、県道赤目掛線そして村道室生曽爾線の4路線が出入りする生活道路で、迂回路があったことにありがたさを痛感したところです。本治議員の迂回路の機能を十分に果たせる道路整備を早急に進めるべきとの質問には十分理解しているところですが、まずは4路線の道路点検や管理、また災害防除対策工事など災害に強い道路づくりを更に進めるべきであり、奈良県、三重県及び宇陀市に更にお願いをしてまいるしたいと思います。

**再質問**

能登地震では、復旧資材の搬入、人材の移動をするための道路が寸断されていることが大きく報道されています。こうしたことを防ぐためにも早急に道路点検、そして点検後の整備が重要でありますが、今回の国道369号の被害、そして県道名張曽爾線の改良について国や県に要望されましたか。

**答弁**

国道369号の被害時には、



国会議員、副知事、奈良県道路マネジメント部長そして奈良県宇陀土木事務所長に現場で要望したところであります。また、県道名張曾爾線の改良については、本年1月に三重県及び奈良県に陳情し、今年も名張市とともに要望してまいりたいと計画しています。これからも、県や国会議員に要望活動を展開してまいります。

#### 問⑤文化財の保全管理について

我が村曾爾村は、712年に日本でも最も古い書物と言われる稗田阿礼等編纂の「古事記」に「宇陀之蘇邇」と記され仁徳天皇と速總別（はやぶさわけ）の皇子と女鳥（めとり）の皇女による口マンスに始まり、皇子と皇女が「宇陀之蘇邇山」の草原にて天皇により退治されるに至る物語が伝わっています。なお、大字今井地内において、速總別の皇子と女鳥の皇女の塚が残されています。

現地を訪れますと、塚の管理状態が悪いと判断せざるを得ません。そこで、塚の管理と保全が重要だと考えますが、村長及び教育長に伺います。

#### 答弁⑤（芝田村長）

先人達が守り伝えられてきた曾爾村の文化財は村の宝であり、また古事記や日本書紀に曾爾村が登場することは大変誇り高いことであると思っています。

この歴史ある楯岡山古墳を村の

宝として、しっかりと保全管理をし、後世に伝えることは今を生きる私たちの責務であると考えています。その為には、曾爾村文化財保護条例により、曾爾村文化財として指定できないか文化財保護審議会に諮問するとともに保全管理に努めてまいります。現在及び今後の古墳の保全管理について教育長から答弁します。

#### 答弁⑤（山本教育長）

まず、村の文化財行政について説明をいたします。国の文化財指定では、令和3年度に伊勢本街道山粕峠と鞍取峠が指定されています。また、同年に曾爾村文化財保護条例が制定され、令和4年度に曾爾村文化財保護審議会が立ち上がり、そして令和5年度には曾爾村文化財1号として山粕の春日神社のお葉付イチョウと長野の欣祐寺の薬師如来座像の2件が指定され、解説看板の設置を進めているところです。本年度では、香落音頭を指定するための準備を進めています。

この楯岡山古墳について、曾爾村史では築造が古墳時代後期6世紀後半と記されています。この古墳には、1号墳、2号墳そして3号墳があり、1号墳は村有地、2号墳3号墳は民有地になっています。1号墳と2号墳は、一部が崩れたり削られたりしており内部を見るのができません。そして3

号墳は横穴式石室を見ることができま。1号墳には樫の木が生長しており、専門家の見解では伐採することは問題ないとのことあります。また、2号墳と3号墳には草が繁茂していますが、年2回の草刈りにより管理をしています。今後は、小中学校の歴史学習や村内外の方に見学頂ける環境整備を進め、専門家の意見を聞きながら文化財保護審議会に諮ってまいります。

**再質問** 今後は、看板の再整備をするともに石標での設置は検討できないか、伺います。

**答弁** 古墳は村の宝でもあり、後世に語り継がれていく事が私たちの使命でありますので、看板整備も含めて整備に努めてまいります。

#### ■大向實議員



#### 問⑥地震等により発災における危機管理について

本年の元日夕刻に能登地震が発生し、元旦にこのような地震が発生するとは誰もが想定していな

かったと思います。そして8月8日に日向灘で最大震度6弱の地震が発生し、南海地震の想定域であることから、政府は南海トラフ地震臨時情報を発表しました。いつかは起きるとされる巨大地震、私たちはこうした防災情報をどのように受け止めて、備え行動するべきかを問われています。

もし大地震が発生し、多くの被害があれば直ちに災害対策本部を立ち上げ、その対応や活動の中心は役場職員にかかってくると思います。勤務時間内であれば支障なく災害対策本部は立ち上げることができま。夜間や休日の勤務時間外となると、多くの職員が村外から通勤されているので、道路の寸断等により対策本部の立ち上げが遅れ初期対応や活動の遅滞となるのではないかと懸念しています。地震に限らず台風等の災害においても最悪の状況も想定しておかないと危機管理が十分でないと思われるが、平時からどのような危機管理体制を整え、災害発生時にはどのように対応し被害を最小限に食い止めるかを、村長に伺います。

#### 答弁⑥（芝田村長）

大規模地震や台風での重大な被害が発生した場合、若しくは発生する恐れがある場合は、職員初動マニュアルに基づき全ての職員が参集することになっています。参

集まる場合は、原則に30分から1時間以内を目途と記載しており、幹線道路などのライフライン、建物の倒壊などの状況を把握しながら参集し、その被害状況を災害対策本部に報告することとなります。

正職員の6割が村外で居住しており今後は更に増えると思います。が、災害発生時には村内外居住者問わず、職員自身や家族の安全確認を行ってからの参集となりますので、1時間を超えたり来られない場合も考えられます。そして夜間や休日の発災となると災害対策本部の設置が困難となる場合も想定されますので、より効率的な連絡体制の構築、参集訓練を行い臨機応変な配備体制を整えることが重要だと考えています。まずは各職員が各所属の役割を理解し、速やかに行動に移せる人材、また、定期的な人事異動により各課業務の習得をさせるなど柔軟に対応できる人材育成が必要と考えています。そして、会計年度任用職員の村内居住者の応援体制も考えています。

災訓練を通じて自助共助の大切さ、自主防災組織の活動の重要性や防災リーダーの育成、住民の防災資格者の取得などの体制支援も検討してまいります。そして災害発生時では、住民の的確な避難行動ができるよう災害に関する知識、避難行動等の広報、ハザードマップ及び防災訓練などにより防災知識の普及で地域の防災力の維持向上を図ってまいりたいと考えています。

#### 再質問

災害発生を想定し、県、警察、消防及び大字自主防災組織との連携を視野にした災害対策本部の訓練を実施するとともに、仕事などで多忙であります消防団にも加わって頂くことも考えられますが、いかがですか。

**答弁** 今まで災害発生を想定した災害対策本部を立ち上げる訓練をしたことがありませんでしたので、勤務時間外に訓練を実施したいと考えています。

#### ■議会傍聴のお知らせ

本会議や常任委員会・特別委員会は一般に公開され、個人でも団体でも自由に傍聴できます。次回定例会は、12月です。議会日程等は、自治体放送等でお知らせします。

## 曾爾村戦没者追悼式

9月26日(木)、先の大戦で尊い犠牲となられた戦没者の方々のご冥福をお祈りするため、曾爾村振興センターで戦没者追悼式が執り行われました。

本年度は5年ぶりの通常開催となり、戦没者遺家族及び関係者が参列し、慰霊黙祷、国歌斉唱、追悼のことは、献花を行って哀悼の意を表し、過去の戦争で亡くなられた方々を悼みました。

村長は、「戦後79年が過ぎましたが、世界では戦争が起こる悲劇が繰り返されており、私たちは戦争の悲惨さと平和の尊さをしっかりと次世代に語り継ぐとともに恒久平和を念じながら曾爾村の発展に向け、専心努力していきます」と式辞を述べました。

最後に、参列者一同が戦没者の方々にお歌を御供えするという意味を込めて唱歌「ふるさと」を合唱し、恒久平和を祈念しました。

